

---

# 遊戯王って難しい・・・

kugi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王つて難しい・・・

### 【Nコード】

N3149W

### 【作者名】

k u g i

### 【あらすじ】

ただの厨二病患者が憑依して遊戯王GXの世界に果たしてもるもろの厄介ごとに主人公は耐えられるのかそしていつになったらデュエルタクティクスが上達するのかただそれだけの話

## ブログ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がいない？いないなら作れば良い

この作品は主人公以外が俺TUEEEEなどの最強系最低物の要素を含みます

そういうものが苦手な人は急いでブラウザバックすることをお勧めします

この小説は作者が受験勉強に対するストレスをぶつける作品です  
で不定期更新です

以下いろいろ忠告などがまだたくさんありますが  
めんどつなので自己責任で見てください



## プロローグ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がいない？いないなら作れば良い

知らないところで目が覚めるのここまで恐ろしいものだとは思って  
いなかった

それはそうだろう

そんなこと日常的に考えて行動している奴がいればそれは確実に一  
般人ではないだろう

そういう俺は勿論一般人であるからそんなことは想像したことすら  
なかった

いつも通りに過ごし、いつも通りに一日を終えた筈なのに気づいた  
ら自分の部屋ではなく、ホテルの様な場所で起き俺は目を覚ました。

最初はまるで意味が解らず理解も及ばなかった

ついで俺を襲ったのは恐怖心だった

それはそうだろう。気づいたら知らない場所にいた。

普通に考えれば拉致致である

そんな状況で冷静にいられる筈もない

勿論一般人代表たる俺は例に漏れず部屋の隅でガタガタ震えていた  
訳だ

しかしいつまで経っても何も起きない事に疑問を感じ、恐る恐る部  
屋を物色し始めると何やらポストンバッグの様な物を発見した  
中になにか俺がこの様な状況になったヒントは無いかと思つて中を  
覗いて見ると何やら紙が入っていたのでその紙を見てみる

「...は？」

デュエルアカデミア本校受験票

そんな言葉が目飛び込んできた

…いやいや流石にそれは無い  
いくら俺が厨二病を患っていようと流石にこれはあり得ないとわかる

…これはあれか、哀れな俺をドッキリにはめようとする誰かの陰謀か！

例え鞆の中に紙の他にデュエルディスクらしき物とデッキらしき物体があるうと信じないぞ！  
どうせこのデュエルディスクらしき物だってオモチャのやつなんだろう！例えオモチャにしては重かるうとデッキをセットして腕はめてみて起動したら起動できてしまったとしても、カードを引いてカードをセットしたら立体映像がたととしても、さっきから窓の外にKCの文字が馬鹿でかいビルの壁に書いてあるうとドッキリなんだろう！

…もういいよな？俺はたくさん否定したしもういいよな？

「遊戯王の世界にきたあああああああああ……！！！！！！」

…厨二病の俺は我慢ができませんでした

しかし現実には甘く無かったです。はい。

あの後調べた結果わかったことを箇条書きにしつつ状況を説明しよう。…誰に説明しているのかわからんがまあいいでしょう。

・受験票を見た結果この人？というより俺の身体？はおれ自身の物ではありませんでした

・どうやら憑依したらしいです。なぜわかったかというところ古傷がないから。…ついでに言うところの古傷は二次創作の主人公とかによくある悲しい過去（笑）ではなく小さい頃自転車で転けて後輪にあしの小指を挟まれ切断する寸前までいった傷なのであしからず。畜生…草履で全速力で坂を降りながらドリフトなんかするんじゃないや無かったです… 鏡を見てくるとその古傷以外は少し前までの俺でした

・ついでに色々鞆の中を物色しているとこの身体の持ち主の日記を  
発見

・日記を見るとどうやら何やら主人公みたいな葛藤やら事情やらが書いてあってそのヤンごとなき事情（笑）で家出てきたらしい…この子も厨二病だったんだね…これ以上見ると俺自身が恥ずかしさのあまりぐわああああああってなりそうなので見るのはやめた。この子自身も他人？に自分の黒歴史を見られたくはないだろう…それにしても他の世界でも厨二病とか…うん、これ以上は考えるのはよそつ。

・閉じようとしたその最後の行にこんな一文が書いてあった

…もうお金がない

・それが事実だと確かめて絶望している 今ココ

・後ついでに入っていたデッキは俺が前世？で使っていたデッキだった

…ヤバイまじでどうしようか

正直デッキがシンクロとか余裕で使つとかエクシーズも使つとかまじどつでもいい

今はそんなことよりも金である

もしかしたら今使っているホテルの金すらないかもしれない。というか無い

なんか無いかと鞆を漁ると中からさっきまでは無かったカードが一枚

ピラツ「強欲ゴブリン」

…破るか…

勿論そんな事はせずに鞆に戻しました

…全力で投げ入れてなんかいないよ？本当だよ？

そんなことはさて置きさつきまでは確かに無かったあのカードがなぜ出てきたのか調べるべくもう一度鞆の中を物色すると何故か強欲ゴブリンが消えてなくなっていた

はて？どうして無くなったんだ？さつきのは夢か？鞆をひっくり返しても出てこない。

もう一度物色開始

すると今度はちゃんとゴブリンが出てきた  
ちゃんと探さなかったからか？

しかし鞆をひっくり返したりしたんだが？

その後色々試した結果この鞆は何かのカードを思い浮かべる。又はカード関係するキーワードを思い浮かべるとその条件に合ったカードを出せるらしい

さつきはお金というキーワードに反応した結果強欲ゴブリンがヒットしたらしい…確かにお金が関係してるけどな？

ご都合主義乙とか言っではいけない

実際問題これのお陰でなんとかこの窮地を脱出できそうなんだから  
ご都合主義乙とか言っではいけない

大事なことなので二回言いました

そんなこんなで試験日当日。今日の試験は筆記である  
ホテルの問題というよりお金の問題はレアカードを換金して払いま  
した。遊戯王の世界様様です  
…さて、色々な二次創作で語られているというより書かれている様  
に筆記試験なんて余裕だろう  
OCGで鍛えた知識でちゃちゃっとクリアしてやんよ！

勿論フラグでした。まる

受験番号98番 柊 優樹

…どうしてこうなったし

というより試験問題が難しすぎた

誰がインプの攻守なんて知ってたんだよ！

あれか！王様が使ったからか！わかるかそんなもん！

誰だよ青眼の白龍+マンモスの墓場でどの様な事が起きるかとかいう問題作ったやつ！知るかそんなもん！

という訳でそんな問題が続きデュエルモンスターズに関する問題は

ほぼ全滅

一般科目で点数を稼ぎギリギリ残ったって感じである

…自信無くなってきたなあ

実技試験の日

そんなこんなで実技試験の日になった

いろんなやつがいるなあと思いつつながら見渡すといるわいるわ登場人物が沢山いる

壁際の方にいるのが豆腐メンタルことカイザーに回が進むことに男前になって行く天上院

あの席にふんぞり返っているのが未来のサンダーこと万丈目  
今デュエルリングでピンチになりながらも試験官に勝利したのが嫌われやすいカイザーの弟こと丸藤翔

そしてそんなデュエルを真剣な目で見ているのが未来のエアーマン  
こと三沢

…大体こんなもんか

『受験番号90番代の生徒はデュエルリングに集合して下さい。繰り返します。…』

おっともう順番か…

まあ楽しくいこうかな

今日のためにデッキを組んで…くんで…ないな

そういえば金のことで精一杯だったし一応筆記試験の勉強で忙しか

つたし…これヤバくね？  
シンクロ主軸のデッキなんだが…

俺オワタ＼（＾o＾）ノ

『案外余裕そうですねマスター』

「いやいやそんなことないぞ？顔に出てないだけでまじ焦ってるから脇汗ヤバイから。冷や汗より先に脇汗出るほどピンチだから」

『…それ熱いだけじゃないですか？』

「その可能性も無きにしも非ずだな」

『…やっぱり余裕そうですね』

急に話しだして困惑しているやつもいるだろうから説明してやろう！  
なんと俺にカードの精霊が付いたのさ！  
しかもなんと！男の娘だ！いいや女の娘だ！と日夜議論の絶えないあのエフエクトヴェーラーだあああ！  
きた！メイン精霊きた！これで勝つる！

『…あんまり変なこと考えてるとぶっ飛ばします』

「決定事項！？」

…まあこんな感じで冷たいです

ついでに始めて見た？会った？ときになんで俺の精霊なったの？と聞くと『デッキで喋ることのできるモンスターが私だけですから仕方なく私です』というありがたいお言葉を頂いて嬉しさのあまりその夜は枕を涙で濡らしました  
ついでに大抵気づいていないだけで一人に一人？は大抵精霊がいるかもしれないらしい。結局どっちだよ！というツツコミは余りにヴェーラーさんがダルそうなのでツツコむことが出来ませんでした  
『それよりいいんですか？そろそろ試験では？』

その言葉を聞いて俺は走り出した

「という訳で試験場に到着しました」

『誰に言ってるんですか？』

「画面の前の以下略」

「…始めてもいいかい？」

「あ、はい。」

「それでは」

「「デュエル！」」

「俺の先攻みたいです。俺のターンドロー！」

この先攻後攻はディスクが判断している。勿論早いもん勝ちでは断じてない

さて、手札はどんな感じかな？…：…そういえばシンクロデッキでしたね。まあシンクロしなくても一応大丈夫なように作ってある。なんとかなるでしょう

…：…どうしてワンキル可能な手札なのか。果てしなく疑問である。…：…そんなデッキではない筈なのだが…：…これが世に聞く世界の修正力か…：…！

『アホなこと考えてないで進めたらどうですか？』

「どうしたんだ？手札事故か？」

ふむ二人ともせっかちな。少しくらい考えてもいいじゃないか。まあ進めましょうか

「俺はモンスターもセツト。ターンエンドです」

どう見てもライコウ又はリクルーターに準ずる何かで本当に以下略

「あれだけ考えてモンスターをセツトするだけとは、本当に事故だつたらしいな」

「はい。その通り事故です」

嘘ですサーセン

「ふむ。例え君が事故を起こしていても試験なのでね。手は抜かずに行かせてもらおう。私のターンドロロー！」

流石グラサンですね。声が洪くて良いですね  
ついでにこの世界はライフは4000ですよ？

「私は手札から切り込み隊長を召喚！さらに切り込み隊長の効果により手札から二枚目の切り込み隊長を特殊召喚！」

…なにそのガチロック。どう見てもこの世界のデュエリストレベルと釣り合っていないでしょうに。というか明らかにさっきまで見てた試験とレベルが違うのですが…後ろの方からなんかあいつ90番代に使う試験用デッキじゃないぞ！とかきこえるんですがどうなんですか？」

「ふむ。どうやらデッキを変えるのを忘れていたようだ」

「そんな冷静に言われても」

いやまあ別に問題無いんだけどね？

「続けよう。私は切り込み隊長でセットモンスターを攻撃！」

切り込み隊長の攻撃により俺のセットモンスターが姿を現す

「残念ながら俺のセットモンスターは戦闘では破壊されないスクラップ・ゴブリン！」

屑鉄で出来た小人のようなモンスターが切り込み隊長の攻撃を防いだ

「成る程、破壊耐性を持ったモンスターか…ならば私はカードを二枚セットしターンエンド」

そう。俺のデッキはスクラップデッキ。中々丁度いい相手にしても真六武やジャンドみたいに圧倒的ではないと評判のスクラップである。

俺自身前世？で遊戯王を一度やめて高校に入って又やり出した時に一番最初に当てたレアのカードがスクラップ・ドラゴンなのでかなり愛着がある

まあこの世界だとスクドラは使えないけど…

ついでにさっきのスクラップ・ゴブリンには他にも効果があり表側守備表示のこのモンスターが攻撃対象に選ばれた時破壊される効果があったからさっき二回目の攻撃があったら危なかった  
まあ効果を聞かない方が悪いんだし良いでしょう

「それじゃあまあ俺のターンで。ドロー！」

「この瞬間、トラップ発動！グラヴィティ・バインダー超重力の網」

…どう見てもこの世界なら通用する処かガチデッキです本当にありますがどうぞいます

「その効果によりお互いのプレイヤーはレベルが4以上のモンスターで攻撃出来ない。更に私の場の切り込み隊長のお互いの効果によりお互いを守っているそれによって君は攻撃宣言すら行えない」

じゃあ何故バインドを張ったし

「まあ念には念をとっちゃつだ」

「というより俺の心チヨイチヨイ読んでませんか？」

「鏡を見てきなさい」

暗に顔に出ていると言われた

「…続けます」

まあ勝てるしいつか

「手札から魔法カードハリケーンを発動！」

「なにっ!?!? (私のグラヴィティ・バインドと奈落の落とし穴が!?)」

フィールドを竜巻が襲いフィールドの魔法・罠カードを手札に戻して行く

勿論ハリケーンなんか使ったってことはこのターンで勝負をつけます

「クツ！だがグラヴィティバインドが無くなるうとも君は切り込み隊長の効果により攻撃宣言を行えない！」

「そんなのはしっています。それにそのロックには弱点がある」

「なにっ!？」

「俺はスクラップ・ゴブリンを対象に速攻魔法！スクラップ・スコールを発動！この効果により俺はデッキからスクラップと名のつくモンスターを一体墓地に送りデッキからカードを一枚ドロウする！その後対象にしたモンスターを破壊する！」

「なにをするかと思えば自分のモンスターを破壊しただけじゃないか」

「まだ続きがあるに決まっています。破壊されたスクラップ・ゴブリンの効果発動！スクラップ・ゴブリンはスクラップと名のつくカードの効果によって破壊された時墓地にあるスクラップと名のつくモンスターカードを一枚選択し、そのカードを手札に加える事ができる。その効果により先程墓地に送ったスクラップ・キマイラを手札に加える！そして手札よりスクラップ・キマイラをコストにワン・フォー・ワンを発動！その効果によりデッキ又は手札からレベル1のモンスターを一体特殊召喚出来る。こい！レベルステイラー！そしてレベルステイラーをリリース もとい生贄に捧げ、出でよ！スクラップ・ゴーレム！」

俺がカードを置くと目の前に屑鉄で出来たゴーレムが出てきた。改めて思うけどリアルやな

「結局何がしたいんだ？あれだけやって結局は上級モンスターを一体召喚しただけ。さらにどれだけ上級モンスターを呼ぼうとも切り込みロックを抜けることは出来ない！」

あつ切り込みロックって自分で言うのか

「まあ慌てないで下さい。これであなたの切り込みロックを突破する準備は残すところ後少しです」

にしてもなんでこんなウザい口調で喋っているのか自分で理解不能すぎる

「ほう。ならば突破してみる！」

「了解です。おれは手札から死者蘇生を発動！墓地よりスクラップ・キマイラを蘇生させる！来い！スクラップ・キマイラ！」

宣言と共に俺の目の前に幻想の生き物であるキマイラが屑鉄の姿で現れる

「ほう。それでどうするつもりだ？」

画面の前の皆ならもう分かるね？

「俺はスクラップ・ゴーレムの効果を発動！俺の墓地に存在するレベル4以下のスクラップモンスターを蘇生する！」

「だが君の墓地には破壊耐性を持つ攻撃力ゼロのスクラップ・ゴブリンしかない筈だ。そんなモンスターを蘇生してどうするつもりだ？」

甘い甘い甘い甘ああああい！

「その通り。俺の場に今蘇生しても意味はありません」

「ならば一体」

「誰が俺の場に蘇生すると言いましたか？」

「何？」

「俺がスクラップ・ゴブリンを蘇生させるのはあなたのフィールドです！」

「何！？相手の場にも蘇生させる事ができるのか！？」

「はい。スクラップ・ゴブリンを攻撃表示であなたのフィールドに特殊召喚！いけ！スクラップ・ゴブリン！そして切り込み隊長がロツクするのは戦士族への攻撃宣言のみ！スクラップ・ゴブリンは獣戦士族だ！」

「クツ！私の切り込みロツクを突破しただと！だがそれでも君のモンスターは攻撃力は2300と1700。すべての攻撃が通れば私を倒す事が出来るが、一体の攻撃でスクラップ・ゴブリンは破壊され、そしてまた切り込みロツクの穴は無くなる。そして次の君のターン私は又グラヴィティバインドを張り直す。それでまだ勝負分らない！」

「何を言ってるんですか？」

「何？」

「あなたも言っていたじゃないですか。『君の墓地には破壊耐性を持つ攻撃力ゼロのモンスターしかいない』と」

「あ」

「という訳でこれでフィニッシュです。スクラップたちよ！スクラップ・ゴブリンに一斉攻撃！スクラップ・パーティー！」

攻撃命令と同時にスクラップモンスターの体の至る所から屑鉄の破片が飛び散りスクラップ・ゴブリンに全て着弾した。と思ったら全てゴブリン避けてプレイヤーに着弾していた

まあご愁傷様

「良く私の切り込みロックを突破して勝利を収めた」

「ありがとうございます」

「試験の結果は後日発表されるだろう」

「わかりました。ありがとうございます。」

何時の間にか近くにきていた試験官と話をして観客席に戻る

『よく勝てましたね』

「本来ワンキルデッキじゃ無いんだがなあ。運がよかったのと、ライフ4000に救われたな」

『ですよー』

まあ一応勝ったし合格したろ

その後観客席で見たら我らが主人公未来のヘルガツチャこと遊城十代が現れた…横に明らかに転生しました俺オリ又シですと言わんばかりの超イケメンを連れて…他にも居るんだなとか思ってたら十代とそいつが試験を開始していたのだが…勘弁して欲しい。そいつが堂々とシンクロを使い更に何故かアクセルシンクロやバーニングソウルを使っていた。

もうシンクロは使えんかもしれんなあ

## ブログ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がない？いないなら作れば良い

読んで下さって大変ありがとうございます

他の作品を書かない作者です

この作品は前書きにも書きましたが作者の受験勉強に対するストレスをぶつける場です

なので不定期更新です

それでも見続けるという方感謝します

作者は現実でもスクラップを使っています

楽しいですが何回もやっていると相手に呆れられます

お前は何回スクドラを出すきかと

今回の制限改訂で開闢が復活しスクラップがヤバイです

どうでしょうか

それでも開闢を1kで買っていた作者は勝ち組

以上作者の自慢話でした

今回の話はスクラップはシンク口無しでも十分やれるということを伝えたかったんですが明らかに無駄が多いです。リアルであんなことすれば返しにブラホで終わりです  
なので絶対に真似しないでください

今回の話をお読み下さり誠にありがとうございます

この作品は不定期更新ですが感想があるとモチベがあがります

それでも不定期更新ですが

もしかしたら感想があると次回からの文字数が増えるかもしれません  
まあいわゆるただの感想が欲しいだけのお願いです

次回もよろしくお願ひします

第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない(前書き)

大体リアルはこんなのが横行してる

## 第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない

試験の後、無事に合格通知をホテルでいただいたがよく住所とかわかったなあとか思いつつ届いた制服を見てみてもちろんオシリスレッドだったがこれはまあ予想の範囲内であつたのでシヨックはあまりなかった。筆記の結果があれだったからな。落ちてないだけよかったと思っておこう

そういえば俺がどうしてデュエルアカデミアを受験したか言つてなかつた気がしたので言っておく

そもそもこの世界ではカードが異常な価値を持っていることは前にも言つたような気がするしアニメとかを見ればわかるだろう。借金のかたにカードを持つていく取立て屋がいるくらいなんだからその価値はすさまじいの一言に尽きる。ということは好きなときに好きなだけカードを出せる俺は一生遊んで暮らせるかというところでもない

遊戯王DM編のときのことを思い出してほしい。レアカードハンターであるグルズなんていう組織があるのである。もちろんグルズ自体は壊滅しているがレアカードハンター自体がいなくなつたわけではないのである。下手にレアカードなどを売りさばくと眼をつけられてしまう可能性がる。仮にデュエルで強奪しにきた場合は何とかする自信はあるが暴力で訴えられたらどうしようもないのである。俺はいたつて普通の少し特殊な事情を除けば一般人だから暴力には即屈する自信しかない。・・・そういえば我らがヴェーラーさんは攻撃力ゼロだがそこんとどうなんだろう？

聞いてみるのが早いかな

「ヴェーラーさんよ。ヴェーラーさんは攻撃力ゼロだけど実体化して攻撃したらどんなもんなのさ？」

『はあ?』

俺の質問に不良のように反応するヴェーラーさんまじこわいっす

「いやだからあなた様は攻撃力ゼロでございますけど実際のところ  
どれだけの威力があるのかと疑問に思ったしだいでございます」

俺は断じて怖がってない。ただこれから行くアカデミアでの敬語の  
練習をしていただけである

『・・・さつきから黙ってたと思ったたらそんなこと考えてたわけ  
ですか?』

「まあ他にも考えてたけど」

『ふん。あっそうですか』

「それでさっきの質問の答えは?」

『精霊が実体化できると思ってるとか厨二病乙としか言いようが無  
いですね。現実を見てください』

「え、できないの?」

『むしろなんでできると思ったのか知りたいですね』

「いやなんか特別な力とかこう精霊パワーで」

『特別な力とかwwできるわけ無いじゃないですかww』

・・・草をはやされました……。でもそうになるとブラマジガールとか原作で実体化とかしてたような

『そもそもカードの精霊というのはカードを通じて現実世界を覗き見ている状態なだけでこつちに完全にこれるわけじゃないですから』

「そうなの？」

『はい。まあさつきは馬鹿にするためだkゲフンゲフン言葉のあやで特別な力は無いといいましたが種族とかではもっていたりします。まあ私は持っていませんが。上位の魔法使い族の方とか特別な事情を持ったモンスターの方々は持っていたりします』

なにかおかしな言葉が聞こえた気がしたがきつと気のせいだろうと思うだろう。そうでも思わないとまた枕がぬれてしまう

『現実には実体化ともなるとカードとは別口で何かの力が必要になります。実体化とかなら使える魔法使い族の方もいますが私はむりですな』

まあそれはそうか。そうでもなければもつと現実派カードの精霊であふれかえっているわな。それに自分で実体化できるなら十代とネオス涙目だしな

『それよりもいいんですか？』

「なにがだ？」

『今まで面白かったので黙ってましたがそろそろ満足したので言い

ますが・・・」

「なんだ？」

やけにもつたいぶるな。なにかそんなにおかしいことでもあった？

『今のマスターは誰もいない空間に話しかけているただの変人ですよ（笑）』

今の俺はアカデミアに向かって船で移動中であるからして本来ならデッキにいるのでアカデミアに向かう生徒であふれているのだが気づけば俺の周りには不思議な空間が空いていた。俺の高校生活は前途多難だと今更ながら涙ながらに思った

「というわけで到着ですかね」

『なにがとういうわけですか』

そんなことをヴェーラーさんと話しながら始業式を終えて歩いてい  
ると俺が住む場所、つまりレッド寮へ到着した・・・が・・・

「・・・思ったより普通だな」

『どっだけぼろいと思ってたんですか』

「いやそうなんだけどさ、周りにいた生徒達の話の中とかでもかな  
りボロイみたいなことを言われてたのに案外普通のアパートみたい  
な感じだからさ」

まあ海とアパートで超ミスマッチなんだがな

「そして俺の部屋になぜか誰もいない件について」

自分の部屋に着き、入室した結果がこれだよ

『まだ帰ってきてないだけじゃないですか？』

確かにその可能性は無くはないしかしだ

「部屋に荷物が俺の分しか無いのはさすがにおかしい」

そう。本来なら部屋の住人たる新入生の荷物が届いているはずである。俺のだけ先に付くわけが無いしこの部屋は三人部屋、仮に遅れているとしても二人分、しかもこの部屋のやつらの分だけ固まって無いというのはさすがにおかしいでしょう

「ほのかに香る薬の臭い・・・これは事件かつ・・・！」

『ほのかに香る馬鹿の臭い・・・これが私のマスターかつ・・・！』

明らかに俺を馬鹿にしているその言葉。せめて突っ込んで欲しかったです

「その臭いはバルンの臭いだにや〜。事件なんて起きない・・・と思いたいにや〜」

俺達が馬鹿をやっていると後ろからかかる声。そしてこの男の声とわかるのに高く、そしてこの特徴的な語尾・・・こいつは・・・！

『その・・・、三点リーダはブームですか？』

とつても便利な文字数稼ぎ。これさえあれば驚きもひらめきも思いのままに

「なんでもいいからこっちを向いて欲しいにや〜(汗)」

まあさすがにずっと後ろを向いているのは駄目だろう。明らかに誰かわかるけど

「はじめましてだにや〜。このレッド寮の管理人。大徳寺だにや〜。

これからよろしくなのによ〜」

「こちらこそはじめまして。柊 優樹です。この部屋には何の用で？」

というわけで俺の後ろにいたのは干からびるアムナエルこと大徳寺先生でした。それにしてもなんのようだ？この人って歓迎会で初登場じゃなかったか？

「それはこの部屋についてだよ〜」

「この部屋について？」

「そうなんだによ〜。この部屋は元々三人部屋なのは知っているにや？」

そう。だから考えているのである。はっそういえば犯人は現場に戻るといっしまさかこいつが！

「私は犯人じゃないによ〜」

そして再び読まれる俺の心。あれか。俺の心はいつもいつでもオーブンチャンネルですか。もしくはおれがさとられ説

「君の無駄な思考は置いておいて、この部屋は君一人の部屋になったのによ〜」

「え。なんでですか？」

「理由はオシリスレッドだからによ〜」

え、わけワカメなんですけど。俺はさとられである可能性があるだけで覚りじゃないから心は読めないんですが。明らかに説明不足。お前らみたいに行で考えが伝わると思うなよ！

「補足説明として、この寮の卒業後の進学、もしくは就職率は低いのにゃ〜。だから狭き門を突破してもこの寮に配属されたというだけで退学する生徒もいるのにゃ〜。だからこの部屋は君だけのへやになってしまったのだにゃ〜」

なるほど。早い話未来の無い寮に配属されてだったら辞めてやんよという精神の元辞めていったわけですね

「毎年少しはいるのですが、同じ部屋の人というのは初めてでしばらくの間は君の一人部屋になってしまったんだにゃ〜」

なるほどそういうわけか。なら仕方ない。というわけで用が済んだなら帰ってください

「もう読まれること前提で考えているにゃ〜。まあ問題ないからいいけどにゃ〜。というわけで伝えたのでかえりますにゃ〜」

はい。さようなら

「せめて口で伝えて欲しいn（ボタン！）」

さらばにゃんこ先生。俺の心の平穩のため犠牲になってもらう

『とりあえずしゃべりましょつよ』

「さとられごっこも飽きたしいけどさ」

それにしてもどうしてそんなに心が読まれるのか。そんなに顔にでてるかな

『むしろ顔がカンペ』

「それは例えなのかけなしているのかこわいから聞かないけどさ」  
そして俺はベッドにダイブからの

「くあwse d r f t g y ふじこ1 p ; @」

『またやってるよ・・・』

なにをしているかわからないって？  
ならば教えよう。悶えているのである  
え？なにに悶えているかって？  
それは

『・・・スクラップパーティ（笑）』

「くあwse d r f t g y ふじこ1 p ; @」

というわけでこの前の試験でテンションが上がり新しく作られた黒歴史を今こうやって身をもって実感しているのですよ。さらには悶えだすとヴェーラーさんの心寒くなる追撃のおかげで俺のこの寒きパトスは誰にも止められない。この部屋が一人部屋になってよかつた・・・もし三人部屋だったらきつと発狂していただろう  
既に発狂してるとか言っではいけない

『・・・スクラップゴーレムの効果発動！（キリッ）』

「くぁ Wse d r f t g g y ぶじじー p . . @ . .」

・・・おそろくー生ヴェーラーさんには反抗できまい

そして歓迎会も終わり就寝時間。 え？歓迎会？メザシ食って終わり

だよ。ほかにもあるだろ？ねーよ。あつたとしてもアニメどおりだよ。展開を描写しろ？アニメ見るJK。まあ違うとしたらオリ主君位かな。やけに親しげにガツチャ君に絡んでいた。そしてめんどくさがられていた。目が飯食わせろって語っていたのに離しかけるオリ又シ君には脱帽です。俺にはできませんそして就寝します

『いやいやまだ十時ですよ？寝るには早いでしょうよ』

「なにいつてんだいヴェーラーさん。今寝れば確実に八時間寝れるんだよ？寝ようぜ？とりあえず寝よ？考えるのは起きてからでもできるじゃん？寝ようぜ？な？」

『どんだけ必死なんですか・・・』

「こんだけ。もうね、眠いの。疲れたの。さすがに初日だから疲れたの。だから眠らせて下さいお願いしますzzz・・・」

『早っ！』

今の俺は光すら超える

・・・がやがや・・・がやがや

・・・るっせーなんだこらぁー俺の睡眠を妨げるやつぁ

『呂律が回ってませんよ』

「しゃべってないのに呂律とはこれいかに」

ヴェーラーさんはより正確に俺の考えをさとれるようです

「そしてこのうるさはなんですかね」

『どうやら外で騒いでるようですな』

「外で？」

おいおいこんな夜更けに・・・夜更け？・・・夜更けでいいや。夜更けに騒ぐとか近所迷惑考えろし。時計を見たら零時前。死ぬ夜更け

であってよかった

『さらっと死ねって言いましたね。まあいいですけど。私も起こされて迷惑ですしね』

おおヴェーラーさんと気が合うとは。俺は明日死ぬかもしれんなんでもないですごめんなさいだからこっち見ないでください

『見に行つて来い』

「行つて来ます！」

俺に拒否権と人権は今しがたなくなった

「だから俺も行くって!」

「いやだから寝てるって!」

「いやだから」

「いいから」

・・・なんぞこれ

目の前には言い争って絡み合う二人の男子プラス取り巻き一名。まあガツチャと富士山とオリヌシ君なわけだが

富士山つてだれって?ただの雑魚です。それ以上でも以下でしかない。まあ嫌いじゃないけど今は実際に弱いのでスルー。それでも正体が気になる人はウェブページにアクセス!

「あ!いいところに!柊君!二人を止めてよ!」

「まあうるさくて眠れないから止めにきたんだが・・・あいつらってそついう仲?」

俺に気づいたのか話しかけてくる翔。ウェブページは実はここという罠

「そついう仲じゃないっす!」

「じゃあなにしてるの?」

「実は・・・(以下略)」

「はーん。つまり十代が呼び出される、行くとする、なぜか付いてきたがる同室者、ウホッいいデッキ！、よろしいならばスルーだ、今ここ？」

「だいたいあってるっすけど細部が違うから全く伝わってこないっす」

こまけえこたあきにすんな

「お！おいお前！いいところに、助けてくれ！」

ここだけ聞くとどう考えても襲われる五秒前

「おい無視すんなよ！」

「だそうだメガネっ子」

「ぼくじゃないっすよどう聞いても。それに僕は翔って言う名前が「なんでもいいから助けてくれー！」だそうっす」

だそうっすじゃないよ。お前も割かし余裕あんのな

「早くー！」

「だから俺も付いてくって！どうせ道わかんないんだろ？」

「昼間行ったからわかるっつーのー！」

「おいおいここはデュエルアカデミアだぜ？そういつときかはどっす

るんだよ」

「急いでるから今はいい！だから助けて下さい！」

おおつ。えらく俺の知ってるガツチャと違うな。デュエル、しかもまだこの世界に無いシンクロとのデュエルを拒むとは。・・・まあ俺の知識なんてほぼ九割SSで得たんだが

『早く静かにさせなさい。さもないと』「おいやめないか君達！深夜に迷惑だろう！」

「あんただれっすか」

命の前には人は自分を捨てても生き残らなくちゃいけないと思う。だからヴェーラーさん勘弁してください

「うるさい！部外者は引っ込んでろ！」

「・・・引っ込んでいいですk『鎮压制圧しろ』Yes！ママ！」

・・・俺も眠いのに・・・

「というわけで静かにしろ、俺の安眠のためにそしてママのため」

「どついうわけだよ・・・とりあえず助かったぜ。サンキューな！」

ひとまずオリヌシを引っpegがして助け出してみた。・・・それにしてもオリヌシって名前みたいになっ来たな

「おい！じゃますんな！」

そして叫び続けるオリヌシ君。お前ののは化け物か

「じゃあ後は頼んだぜ！」

え

「よろしくっす！」

え

「俺のジャマしやがって……ただで済むと思うなよ？」

え

『ちっちと沈める』

え

「デュエル！俺の先攻！ドロー！俺は手札から魔法カード調律を發動！このカードはデッキからシンクロンと名のつくモンスター一体を選択し、手札に加え、その後、そのレベル分デッキの上から墓地に送る。俺はジャンクシンクロンを手札に加える！俺は手札を一枚墓地に送り手札からチューナーモンスタークイック・シンクロンを特殊召喚！現れる！クイックシンクロン！さらにさつき墓地に送ったレベルステイラーの効果発動！フィールド上に存在するレベル5以上のモンスターのレベルを一つ下げ墓地から特殊召喚できる。俺はレベル5のクイックシンクロンのレベルを一つ下げレベルステイラーを特殊召喚！俺はさらに手札からドッペルウォリアーを特殊召喚！このモンスターは墓地からモンスターが蘇生に成功したときに手札から特殊召喚できる。そして俺はレベル2ドッペルウォリアーにレベル4のクイックシンクロンをチューニング！集いし力が大地を貫く槍となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！砕け、ドリル・ウォリアー！そしてシンクロ素材にされたドッペルウォリアーの効果発動！このカードがシンクロ素材にされたときフィールド上にレベル1のドッペルトークンを二体特殊召喚する。現れる！ドッペルトークン！さらに俺はデッキトップを一枚墓地に送り墓地からグローアップバルブを蘇生させる。俺はレベル1ドッペルトークンにレベル1のグローアップバルブをチューニング！集いし願いが新たな速度の地平へ誘う、光さす道となれ！シンクロ召喚！希望の力、

シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン！フォーミュラシンクロンの効果発動！俺はデッキからカードを一枚ドロウする。さらに俺はレベル6ドリルウォリアーにレベル2シンクロチューナーフォーミュラシンクロンをチューニング！集いし願いが、新たに輝く星となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ！スターダストドラゴン！さらに俺は手札からチューナーモンスタージャンクシンクロンを召喚！ジャンクシンクロンの効果発動！墓地に存在するレベル2以下のモンスターを蘇生させる！こい！フォーミュラシンクロン！クリアマインド！レベル8シンクロモンスタースターダストドラゴンにレベル2シンクロチューナーフォーミュラシンクロンをチューニング！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く。光さす道となれ！アクセルシンクロ！！生来せよ、シューティング・スター・ドラゴン！！そして俺はレベル1レベルステイラーに、レベル3ジャンクシンクロンをチューニング！シンクロ召喚！アームズエイド！アームズエイドの効果発動！1ターンに一度このカードを装備カード扱いとしてフィールド上のモンスター一体に装備することが出来る。装備しろ！シューティングスタードラゴン！アームズエイドの効果によって装備されたモンスターの攻撃力はプラス1000される！俺はカードを二枚伏せてターンエンド！」

.....

え、なにそれ怖い

第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない（後書き）

最後に全力を尽くした

投稿しなかったのはストレスがたまらなかつたから

待っていてくださった方がいたならありがとうございます

これからも続けますのでお願いします

感想受付直しました。今まで申し訳ありませんでした

感想は欲しいですはい

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3149w/>

---

遊戯王って難しい・・・

2011年11月8日23時09分発行